

## 兵庫県南東部に分布する超丹波帯とその砕屑岩の堆積年代

## Depositional age and tectonostratigraphy of the Ultra-Tamba Terrane in the southeastern part of the Hyogo Prefecture, SW Japan

# 菅森 義晃 [1]

# Yoshiaki SUGAMORI[1]

[1] 阪市大・理・地球

[1] Dept. Geosci., Fac. Sci., Osaka City Univ.

兵庫県南東部に分布する超丹波帯は Ishiga (1990) により上部ジュラ系の猪名川層群, 松浦ほか (1995) により中生界の山下層・長尾山層と呼ばれていたが, 近年それらの砕屑岩から従来の年代観を覆すペルム紀中世~新世の放散虫化石の産出が相次いでいる (楠ほか, 1997; 菅森 2006a, 2006b). 筆者は当地域の超丹波帯の地質調査を行っており, 砕屑岩の年代や層序, 地質構造の点で新たな知見が得られたので報告する. なお, 本報告では, 菅森 (2006a) に従い, 研究地域の超丹波帯を猪名川コンプレックス (以下, 猪名川 C と略記する) と仮称し, 以下のように細分する.

猪名川 C は, 堆積年代及び岩相から構造的上位の国崎サブコンプレックス (以下, 国崎 SC と略記) と構造的下位の長尾山サブコンプレックス (以下, 長尾山 SC と略記) に細分される (両者とも仮称). 国崎 SC は Sakaguchi (1961) の国崎層に, 長尾山 SC は Sakaguchi (1961) の長尾山層及び山下層にほぼ相当する.

国崎 SC は砂岩泥岩互層, 岩塊を含む泥岩, チャート, 珪長質凝灰岩及び緑色岩からなり, 見かけの厚さは約 800m である. 下位から, 緑色岩・チャート・珪長質凝灰岩・砂岩の岩塊を含む泥岩, 砂岩泥岩互層, チャート・砂岩の岩塊を含む泥岩という見かけの層序をなしている. 緑色岩は長尾山 SC との境界付近に断続的に認められ, 見かけの厚さ約 30m を有する場合がある. チャートは, 一般に塊状で褐色や灰色を呈し, 緑色岩と剪断面を介して接触する岩塊として認められる. 珪長質凝灰岩はチャートに類似し, 灰色を呈し, 泥岩中の岩塊として産する. 層状の珪長質凝灰岩からは *Follicucullus charveti* Caridroit and De Wever などが, 泥岩からは *Follicucullus porrectus* Rudenko や *Fo. cf. charveti* などが産出する. また, *Albaillella yamakitai* Kuwahara を産出する泥岩が報告されている (菅森, 2006b). これらの放散虫化石を含む砕屑岩は Kuwahara et al. (1998) の *Fo. charveti* - *A. yamakitai* 群集帯に対比されるものと考えられる.

一方, 長尾山 SC は砂岩泥岩互層及び破断砂岩泥岩層を主体とし, 珪長質凝灰岩を含む. 見かけの厚さは約 1500m と見積もられる. 見かけ下部では, 砂岩泥岩互層を主体とする部分及び破断砂岩泥岩層を主体とする部分は側方への連続性がよい. 見かけ上部では破断砂岩泥岩層が主体となり, 塊状の泥岩が含まれることがある. 珪長質凝灰岩は泥岩中の岩塊として含まれることが多いが, 止々呂美の余野川河床では平行葉理の発達する泥岩と整合関係のものが認められる. 楠ほか (1997) は, 珪長質凝灰岩から *Fo. porrectus* などの *Follicucullus* を主体とする放散虫群集, 泥岩から *Albaillella protolevis* Kuwahara (*Albaillella levis* Ishiga, Kito and Imoto とされた個体) を主体とする放散虫群集を報告している. また, 菅森 (2006a) も泥岩から *A. protolevis* などを報告している. 今回, 筆者は *Neoalbaillella* sp. などを含む珪長質凝灰岩, *Fo. porrectus* や *Follicucullus scholastics* Ormiston and Babrock, *Follicucullus bipartitus* Caridroit and De Wever などを含む珪長質凝灰岩を見出した. 長尾山 SC の珪長質凝灰岩は少なくとも Kuwahara et al. (1998) の *Fo. charveti* - *A. yamakitai* 群集帯 ~ *Neoalbaillella ornithoformis* 群集帯ないし, *N. optima* 群集帯に比較され, 泥岩は *N. ornithoformis* 群集帯下部に対比される可能性が高い. 長尾山 SC は国崎 SC よりも若い年代の砕屑岩を含んでいる.

猪名川 C の砂岩泥岩互層の層理面及び破断砂岩泥岩層における岩塊の定向配列面の走向は西北西~東西方向のものが卓越し, 全体的に緩傾斜のプランジを持つ複向斜状構造をなしていると考えられる. また, 主要なシンフォーム (山下シンフォーム) 軸は山下付近に存在するとされていたが, アンチフォームを挟んでより北方の黒川 - 国崎付近にもシンフォーム軸 (黒川シンフォーム: 仮称) が存在する. 黒川シンフォームでは, 長尾山 SC の構造的上位に位置する国崎 SC が露出しており, 構造的上位の地質体ほど砕屑岩の堆積年代が古いとみなせる. このような構造的特徴は付加複合体の特徴の 1 つであるが, 現段階では海洋プレート層序の復元には至っていない. 今後, 猪名川 C が海洋プレート層序を持った地質体なのか, あるいは, それ以外の源岩層序を持った地質体なのかを検討することが超丹波帯の形成史を明らかにする上で重要である.